



2018年3月19日
みその都市デザイン協議会

世界に誇れる“スタジアムタウン”に相応しいアクセス環境の実現に向けて
『美園スタジアムタウン：スタジアムアクセス戦略』を策定
 アジア屈指のサッカー専用スタジアム「埼スタ」の立地する さいたま市美園地区

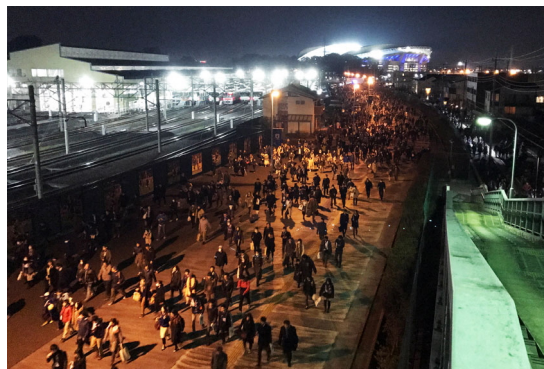
みその都市デザイン協議会（埼玉県さいたま市、会長：久保田尚埼玉大学大学院教授）では、埼玉スタジアム2002 周辺でのサッカー開催日における交通渋滞悪化等を踏まえ、世界に誇れる“スタジアムタウン”に相応しい安全・円滑・快適なスタジアムアクセス環境づくりに向けて、2017年4月に策定された『みその都市デザイン方針』に即して具体方策の検討を進め、その成果を取りまとめた『美園スタジアムタウン：スタジアムアクセス戦略』を2018年3月に策定いたしました。

本戦略の策定を契機に、地域関係者の連携を一層促進させ、埼スタを核とした、世界に誇れる“スタジアムタウン”に相応しいアクセス環境の実現に向けた施策展開を進めてまいります。

さいたま市の“副都心”の一つに位置づけられている「美園地区」では、大規模な土地区画整理事業を核とした都市開発が進行中で、住宅供給や店舗建設等も徐々に進展してきていますが、埼玉スタジアム 2002（以下、埼スタ）周辺でのサッカー開催日における自動車交通量増加による車両渋滞悪化や、スタジアム来訪者動線と地域の生活動線等との混在等が懸念されてきています。埼スタは2020年東京五輪のサッカー会場の一つにも予定されており、本地区へのインバウンド観光対応も含め、地域資源を活かした来街・回遊・滞留の促進も見据えた観客輸送・交通混雑対策が重要なまちづくり課題となっています。



▲サッカー開催後：埼スタ周辺交通混雑



▲サッカー開催後：埼スタから駅に向かう歩行者

そこで、みその都市デザイン協議会^{※1}（以下、本協議会）では、2017年4月策定・公表の『美園スタジアムタウン憲章』^{※2}および『みその都市デザイン方針』^{※3}に即して、典型的な混雑パターンを示すサッカー開催日を抽出した交通量調査・分析を進めながら、地域住民の居住環境や地区内立地施設の事業活動等と両立した安全・円滑・快適なアクセス環境づくりに向けた具体方策検討を進めてまいりました。この度、その検討成果を取りまとめた『美園スタジアムタウン：スタジアムアクセス戦略』を2018年3月に策定いたしました。

今後、本戦略に基づいて、2020年東京五輪を短期目標に、自家用車から公共交通を中心とした交通手段への転換（モーダルシフト）に向けた各種施策に取り組んでまいります。先行して、サッカー開催日を対象とした鉄道料金割引切符発売のパイロット事業^{※4}も始動するなど、関係事業者のトライアルも活発化してきています。また、本協議会内にプロジェクトチームを組織し、関連企業・機関とも連携しながら、シャトルバス優先走行化や駐車場マネジメント等の交通社会実験の企画立案にも着手しており、本戦略の策定を契機に、地域関係者の連携を一層促進させ、埼スタを核とした、世界に誇れる“スタジアムタウン”に相応しいアクセス環境の実現に向けた施策展開を進めてまいります。

『美園スタジアムタウン：スタジアムアクセス戦略』概要

交通渋滞の直接的原因となっている自家用車から、公共交通を中心とした交通手段への転換（モーダルシフト）等を目指す上で、達成目標・評価指標を設定し、その実現に向けた戦略・プロジェクトを抽出した。

■大目標 「世界に誇れる“スタジアムタウン”に相応しいアクセス環境をつくる」

■達成目標と評価指標

- ▶ 達成目標(KGI)：交通手段別利用者数(分担率)を設定
- ▶ 評価指標(KPI)：混雑度・所要時間など、交通手段別サービス水準を設定

■アクセス戦略

アクセス改善に係る 48 施策を、3 類型 6 戦略に整理。

▶ 公共交通・歩行者・自転車のアクセス環境向上…

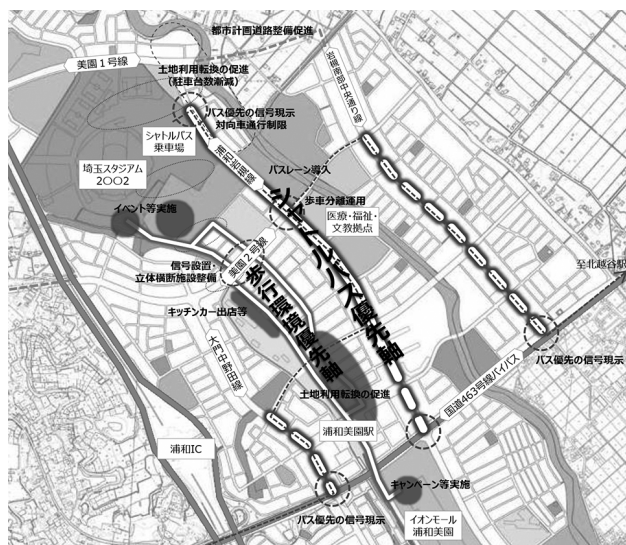
- ①容量・空間を「増やす」
- ②ルートを「分ける」
- ③ピークを「ずらす」
- ④移動・待ち時間を「楽しませる」

▶ 交通モード転換…

- ⑤自家用車から公共交通への手段転換

▶ 推進・管理・運営…

- ⑥公民+学による機動的な推進マネジメント



▲プロジェクト展開イメージ図(部分抜粋)

■重点プロジェクト抽出

東京五輪の開催される 2020 年 7 月を短期目標に、緊急性の高い先行プロジェクト 3 つ、継続的に取り組む継続プロジェクト 1 つを抽出。

- ▶ 先行プロジェクト①「シャトルバス優先走行化」：シャトルバス所要時間の改善、病院利用車両の動線確保など
- ▶ 先行プロジェクト②「歩行環境最適化」：歩行者動線確保、歩行所要時間改善と街への滞留促進など
- ▶ 先行プロジェクト③「おもてなしアクセス」：自家用車利用者の交通手段転換促進、公共交通利用の待ち時間案内など
- ▶ 継続プロジェクト「駐車場マネジメント」：駐車台数・位置のコントロール、土地利用転換の促進など

※1 **みその都市デザイン協議会について**：さいたま市美園地区の個性と魅力ある都市空間・都市環境の実現に向けて、2016年3月に設立（事務局：さいたま市浦和東部まちづくり事務所・一般社団法人美園タウンマネジメント）。地元組織・行政・立地企業・大学など「公民+学」の各主体が参画し（18団体：2018年3月時点）、本地区のまちづくり拠点施設「アーバンデザインセンターみその（略称：UDCMi）」を協働・情報発信の場として、主にまちづくりに係るハード面の検討・協議・調整に取り組む。地域の空間資源を活かしながら、街並み景観・公共空間・交通環境など、新たな都市基盤上に形成する空間・環境の質の向上を目指している。

※2 **美園スタジアムタウン憲章について**：住民・地権者・民間企業・行政機関・大学など、さいたま市美園地区のまちづくりに係る主体間の連携・協働の促進に向けて、将来都市像や基本理念を先行的に整理し、共有を図るための“まちづくり憲章”として2017年4月に策定・公表（策定主体：美園タウンマネジメント協会、みその都市デザイン協議会）。

※3 **みその都市デザイン方針について**：さいたま市美園地区において大規模な都市開発の進む中で、道路等の都市インフラの供用開始や宅地の使用収益開始が本格化している状況を受け、『美園スタジアムタウン憲章』に即しながら取りまとめられた、空間デザイン・環境デザイン等に係る本地区の共通指針。2017年4月に策定・公表（策定主体：みその都市デザイン協議会）。

※4 **サッカー開催日の鉄道料金割引切符発売について**：本協議会に参画する浦和レッドダイヤモンズ株式会社・埼玉高速鉄道株式会社により、埼玉スタジアムで平日開催される浦和レッズのホームゲーム日に運賃が50%割引される企画乗車券「浦和レッズエコきっぷ」を発売する試みが2018年3月より始動している。

◀この件についてのお問い合わせ先▶

一般社団法人美園タウンマネジメント（担当：岡本）

Phone. 048-812-0301 E-mail. info@misono-tm.org